

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム 憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園や、クワイ畑等があり、懐かしい故郷を思い起こす山が見え自然に恵まれた環境の中に「グループホーム 憩」があります。近くには、保育所、小中学校、公民館もあり、子供たちや地域の人々との交流、町内行事などに参加して地域との関わりも大切にしています。平成15年に開業し、現在は入居者様の介護度平均3.5です。入居者様については病院の医師、看護師と医療連携を取り、きめ細やかな健康管理をしながら、同ホームの看護師、職員全員が終末期ケアにも取り組み支援しています。職員は、理念にある心の繋がりを大切に入居者様の個性も理解して、その人らしく生きて、楽しく笑顔で安心安全な暮らしが毎日送れるように全職員が介護支援をしています。今後、憩は地域密着の拠り所になりたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りには、田畑もあり、季節ごとの収穫を見る事で季節感を味わう事が出来る。近隣には、小、中学校の学校、公民館等もあり、公民館行事にも参加し、地域との交流が深められている。また、中学生の訪問もあり、歌や手遊び等、一緒に楽しんだり、色んな場面で地域の方との出会いを多く持ち顔見知りの関係を築いている。ケア面に於いても個々に合わせた細やかなケアに努められ、利用者の思いを大切にすると共に医療連携の充実が図られ、安心、安全な体制の確立、また、馴染みのある地域で自分らしく過ごしてもらえるよう取り組まれている。歯科医師の口腔ケアの勉強会をする等、常に利用者側に立ち、目線を同じにした支援がされている。地域の方も気軽に訪問され今では地域の一員として地域貢献と地域資源を活用しながら地域に根ざした事業所となっている。今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として考え、理念を目標にケアを実践できるように常に考えている。その為にミーティング、申し送り等に話しをするようにしています。いつも目に見える場所に提示している	職員の意見を集約し作成された理念を、目につきやすい場所に掲示し、ミーティングや申し送り時、振り返る機会を持ち、全職員が共有し、日々実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の活動や、回覧版で行事を観て積極的に参加している。職員は近所の方々と顔馴染みになっており、挨拶はいつもしており、良い近所付き合いができています	清掃活動や夏祭りなどに参加したり、公民館の講座に行ったり、また、中学生のチャレンジウィークの受け入れがきっかけで顔なじみになり、生徒や先生が歌を楽しみながらの手遊びなどボランティアとしてもらう等地域の一員として常に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを、利用して勉強会、講習会、相談など実施している。10月には憩まつりを開催して、家族から御意見、質問を頂き理解を深める事ができました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者様の状況、行事、活動報告から、入居者様の重度化に伴うリスクや危機管理、防災面でのリスクを情報を伝えて、話し合いをしサービス向上に活かしている	家族代表、町内会各役職の方数名、民生委員、包括支援センター等の参加により、現状や取り組み状況について報告し、意見交換の場とし多くの意見を得、ケア向上に繋げている。また、歯科医の講演や成年後見人等の勉強会となる場合もあり、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所では、生活保護の方が、7名入居しており、生活福祉課とは、連絡を密にしています。介護保険課、障害福祉課などの各担当者の方と、相談や、連絡が直ぐに取れるように、関係を築いています。	行政担当者(生活福祉課、介護保険課)等との連携は常に取情報提供やアドバイス等を得られる関係が出来ている。包括支援センターとも協力関係を築いている。行政に対しては運営推進会議への参加の依頼もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束ゼロの取り組みをしています。身体拘束しないケアを理解している	マニュアルを作成し管理者、職員が日々話し合い、拘束をしないケアに努めている。リスクマネジメント会議で事例を基に話をすることもあり正しく理解をし、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを各フロアーに置き、職員がいつでも閲覧できるようにしている。申し送りや、ミーティングなどで、検証しており防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者には、すでに制度の利用をしている。職員が権利擁護に関する制度について勉強会などで、学習の機会を持ち活用できるように考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明をしっかりと行い、入居者様ご家族からの質問や疑問には、必ず回答を示し、必要であれば、入居者様、ご家族、職員で話し合いの場を持ち本人、家族が理解し納得して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望を聞いた職員は、記録に残し職員全体に伝達している。すぐに対応できない事は会議の場で検討する。家族には、苦情箱を設置しているが、殆ど利用しないで、職員に直接話されている	訪問時や電話等で言われる事が多く、それらの意見は記録に残し、管理者等に伝え検討し個々に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案は、各ユニットでミーティングを直ぐに行い検討する。良い提案は、実現するようにしている	日々のケアの中で意見や提案が良く出る。それらの意見や提案については記録に残しミーティングで検討し、解決できる案件については即対応し反映させている。個別に問いかけて聞き取る場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護事業全体会議を行い管理者からの事業所の取り組みなどの報告に基づき職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、9日を定例にして、リスクマネジメント勉強会をしており、職員のケアの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所、法人内外の事業所との交流する機会を設けるように努めている。合同のイベント、勉強会、運営推進会議など実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には。環境も変わり不安な様子が見られる為、ご本人、家族からの要望は、真摯に受け止め時間をかけて傾聴する姿勢で信頼関係を築くように支援させて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から、ご本人の心身の状態など話を聞いた上で、グループホームとして支援が出来る事、出来ない事を、家族にしっかりと理解・納得して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、その方の向き不向き、満室で直ぐに入居ができない場合、他事業所への見学、相談、紹介もするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が、楽しみながら、役割作業(洗濯物たたみ、紙箱折り、ちぎり絵、塗り絵、家事など)をして頂く中で、職員も関わりを沢山持つようにしています。感謝、お礼の言葉は、気持ちを込めて伝えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、支援相談させて頂く中で、協力をお願いするという、関係を大切にしています。入居者様の誕生日会、外出イベントの参加を呼び掛けて、一緒に楽しく過ごせるように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前や、入居時に、ご本人や、ご家族から人間関係や、馴染みの場所などの話を良く伺うようにして、家族と相談しながら支援に努めている	近隣の利用者には知人の方が顔を見にきたよ、と気軽に訪問される事もあり、遠慮なく訪問できるような雰囲気づくりに努め関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の生活歴や、個性を尊重して職員が、入居者様を、孤立させないように、入居者様同士が仲良く助けあって生活ができるように環境作りなどに気を配り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された方は、こちらから見舞いをしたり、特養ホームに入所された方にも、面会に行ったり連絡を取るようになっている。退居理由は、死亡が殆どである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、思いや要望、好みなどを把握して支援している。言葉で意思表示が出来ない場合であっても表情や動きを注意深く見守り、食事についても配慮したり、意向を汲み取るようにしている。	日々の関わりの中や入浴時の会話の中で把握して可能な限り個別対応している。困難な場合は表情や行動から汲み取り想いに添う様検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の生活歴に関する情報を、本人と、家族から聞き取り、その方の昔を良く知る人からも面会時に教えてもらっている。入居前の利用、入院していた病院、施設と連絡をとり情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態が変わるという認識をもち、状態の変化に応じて細かいケアをしている。健康管理記録、服薬管理、介護記録を書いて申し送りしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書の内容は、職員の間でミーティングをしてアセスメント、問題点を常に意識して日々のケアに活かされている。ご本人、家族、医師、看護師、職員、関係者と話し合いをして状態変化ある時にも介護計画を作成している	基本情報を基に家族参加のサービス担当者会議で本人、家族の意向や職員の意見を反映させ作成し、家族の承諾や職員にも周知されている。モニタリングは月1回行い、ケアチェックをし個々に合わせた期間で見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況の記録をして必要な情報は、常に閲覧、回覧し実践や介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって「憩」の場所となっており、他の入居者様の迷惑にならないなら、一人ひとりの要望に添った支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化活動への参加、交流、地域ボランティアの慰問、市の担当課との協働による支援、警察、消防との連携による防犯、防災の対応などの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族が希望する関りつけ医や、協力医と連携をして適切な医療が受けられるように支援している。皮膚科や歯科の往診もあり、納得が得られている	月2回の協力医療機関からの往診があり、訪問歯科による個別対応等、医療連携が密にとれていていつでも適切な医療が受けられる体制となっている。受診支援も柔軟に行くと共に結果についても家族や職員が共有し適切に対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	福山記念病院の訪問診療と、G/H憩の正看護師(パート勤務)に情報、身体状態の気付きなどを、伝えて適切な受診や、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院からの説明には、職員が家族と、同席して退院までの計画を把握している。洗濯物や、必要な物品購入も相談して分担している。常に家族と職員が、入居者様を支える態勢を取り、病院との連携も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、入居時に現状とリスクについて説明している。事業所の出来る事、出来ない事医師と看護師に意見を聞いて相談している。見極めてからご本人家族に説明をしている。後悔しない支援に取り組んでいる	利用開始時、説明を行い、状態を見ながら状況変化によりその都度家族の意向を聞き、医師の意見を踏まえ家族、医師、看護師、職員等が連携を密に取りながら方針を共有しチームで対応していく様取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はしていないが研修会に出席したり、また急変時マニュアルは、目の届くところに置いてある。実践力を付けるために努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は消火器や、避難経路の誘導の確認は把握している。消防署の協力や、運営推進会議などを利用して地域の有権者に入居者様の様子を含め事業所の実態を説明して協力を呼び掛けている	消防署の指導を得ながら、消防計画を作成し消火器の使用方法や連絡手順、避難方法、避難経路の確認等の訓練を利用者と共にされている。また、運営推進会議でDVDを見ながら災害についての勉強会をすると共に協力をお願いもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を大切にした対応を心がけている。なお親しみやすさを失わない家族的な対応や支援をしている	馴れ合いの中でも、尊厳を大切にした言葉かけや対応に心掛け、個々の思いを大切にされたケアをされている。書類面の保管も配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の動きが怠慢になったり行為が中断しても、せかすような声かけはしない。その人の状態に合わせて、向き合うように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	加齢による重度化、認知症の進行に伴い、日常生活の維持が困難な方が増え続ける中で、職員は、精一杯寄り添う支援を続けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は近くの理髪店にお連れする方や、訪問美容師さんによるカット、毛染めをする方など希望に添って支援をしている。化粧品も揃えており、外出の時には、お化粧をしておしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の動きを把握しながら準備や食事、片付けをしている。職員も同じ物を食べて安全に安心を与えながら楽しく食事をしている。個別レクの時に外食の雰囲気を楽しんでもらえるよう支援している	身体状況に合わせた食事形態で、食を促す声かけで食の楽しみを味わってもらえる様、急がさずゆったりと一人ひとりに合わせた時間で対応されている。下膳等出来る方にはしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し、食べた内容や水分量の確保と栄養バランスに注意して努めている。嚥下障害、摂食障害のある方にも、個別対応にて食事介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の意思や生活習慣を理解して毎食後の口腔ケアをしています。歯科医師の訪問診療を受け、定期的な口腔ケア、義歯の調整や、歯の治療をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄状態に合わせてパットの昼用、夜用と使い分けている。一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声かけとタイミングでトイレ誘導をしている。夜間は、足元センサーを利用しトイレで対応する	排泄パターンを把握し、個々に合った時間帯で声かけをし、出来るだけトイレでの排泄に努めると共にADLに添った対応が出来る様、トイレ内をテスリやバーの工夫をされ、習慣を活かした支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、繊維質の多い食事の他にも、おやつに色々な飲み物や、ヨーグルト、ゼリーも用意して飲食物の工夫をしています。嚥下困難な方には、トロミをつけて水分摂取の介助支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	認知症の症状で、入浴拒否の方や便、尿失禁の方は、シャワー浴で、清潔保持に努めている。バイタルチェックを必ずして入浴の可否を看護師と相談して入浴の支援をしている。週2回を目安にしているが清拭、足浴になる日もある	身体状況を細かく把握し、入浴支援されている。拒否の場合には無理強いせず、タイミングや工夫をし、シャワー浴や清拭、足浴で対応する場合もある。個々の状況に配慮し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングでも、休息出来るようにソファ椅子、簡易ベッドも置いている。身体の状態を見て居室に誘導して休息の支援をしている。夜間不眠な方には、飲み物を出したり、寄り添い見守りをして安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の処方箋を見て、薬の目的や、副作用を確認して保管している。特に、薬の変更、用量については、理解をして服薬の支援をしている症状の変化にも観察して確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、リハビリ、タオル体操をした後に歌詞ファイルを見て皆で歌ったり、カレンダーの塗り絵をしたり、ちぎり絵、編み物、読書、広告の紙箱作りなどの手作業は出来る方にも関わっている。気分転換に職員と一緒にゲームをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方は、自動車、車椅子を利用して外出し、花見、菊花展、外食などのイベント、本人の希望に添って買い物、散歩などの支援をしている。地域の行事、盆踊りや福祉祭りにも参加している	四季に応じた外出や買い物、また、工場見学に行ったり、希望で外食等も楽しまれている。地域行事へも積極的に出かけ、気分転換や五感刺激となる様取り組んでいる。また、天気の良い日には散歩や外気浴をしてもらい機能維持や健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご本人と家族で良く話し合い、その方が納得し、安心できる方法を考えて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、家族や相手先の事情を把握しており、時間など考慮した上で、先方が、迷惑でないようなら電話、手紙は自由に出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインド、カーテン、照明、テレビの音も調整して落ち着いて生活出来るような空間を作っている。季節や入居者様の体調に合わせて空調の温度調節をしている。季節を表す装飾や、イベントの展示をしており、居心地がよい共用空間づくりにしている	季節を感じる装飾品も飾られ、掘りごたつのある畳スペースやソファも置かれていてそれぞれが思い思いの場で過ごせる空間づくりとなっている。日当たりも良く嫌な臭いもなく、室温にも配慮された共有の場で穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒などの危険に充分配慮して皆が集まる場所居室以外で一人になれる場所、気の合った人達が過ごせる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、家で長い間使っていたものや、愛着がある物、思い出のアルバム、作品も持ってきてもらい居室に飾っています。	馴染みの椅子や寝具、思い出の写真等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるような工夫をされた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当の職員と、フロアーの主任、副主任が、中心になり、一人ひとりについてのカンファレンスをしたり、申し送り等で、心身の健康状態を毎日確認している。安全に安心して生活が出来るように支援している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		災害時の対応 一年2回実施している消防訓練への地域の方の参加が少ない現状を踏まえ火災や災害発生時、いかにして近隣の協力を得るか これまで以上にグループホーム憩を認知していただく為に、地域行事への参加や地域の人々との関係を深めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との繋がりを深める。 ・地域行事への参加 ・グループホーム内行事への地域の方々を招待する 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをしっかりとする。こちらから積極的に話しかけ地域の方々との馴染みの関係を深める。 ・清掃行事、地域学習会などへの参加 ・施設行事のチラシを作り、公民館や近隣の方々へ配布する。 	1年
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。